大和物語

上・下

WA 7
189

国立国会図書館　タイトル『大和物語 2巻』 請求記号 WA7-189

ガラス使用

やまとものがたり　上

WA 7
189

国立国会図書館　タイトル『大和物語 2巻』 請求記号 WA7-189

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『大和物語 2巻』 請求記号 WA7-189

ガラス使用

帝國圖書館藏

亭子院の御門いと高きたちぬ竹ひなんとする
ゑ後弘徽殿の御方に伊勢乃ぞ御きつけ給ふ
わつ御まとあひをたしぬ御しをを
見ぬらんあとれなるうゐ那しむ
とありけまをみゝ御らんしてそれをきりふ
ゝふ御ゑさせ給ひ給ふ
身ひとつにあらぬ世をなとう見ぬむ
ゆゑめくるそなへく
世をゝんあり立わ
みゝ世なわぬ孫くゝの年月あきれくゝおろ
孫てとゝろくゝ山ゝと志孫れあるひゝひゝわ
備前乃世うゝそたちはかれ
れゝゝめゝとひゝ

77W05315

52.2.17 帝國圖書館

人間ゝ有ゝ御ゝ家御後上ゝさゝひゝ御
ゝれ御ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝて御ゝとゝまにゝゝおろし
て立わ人ゝをゝゝ世ゝゝてありゝたま記ゝ
はゝゝゝゝあまなんをくまをゝてゝゝひ御
かゝ孫御ゝゝゝゝゝゝゝゝきゝゝゝとて
内ゝわかゝ中將ゝまゝかゝゝゝへゝゝたくゝ
ら世孫御まゝゝ世ゝのひ御ゝ御ゝの國ふ
ゝゝ孫孫ゝひ孫ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ありゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
思ひゝゝゝかゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
と哥にゝめゝとゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ

ふるさとにたひ初の義をしり給へる
うゝみやをゝひまをとゝをゝ
とあり名ふりにゝる人なきてえよまれあるをり
をりそれ名をゝん寛蓮大とゝく宣いひくゝちまて
さゝひくゝふ故源大納言宰相ゝ院乃ほ賀ほくうまつり
系図のみやすとゝろ章子院乃ほ賀ほくうまつり
外とてかゝふひなんをんと思ふにけ掛ひと
えるふ面えゝ勢うせてゝ面へとやゝ外ひけまを
記けこをあまゝせゝ殺ゝふてやゝふいろく
ふそあうせ殺ゝくりしきをのくゝりのとをゝ
ふ殺先ゝりゝこ伊ゝくゝ家あり巻て勝ゝ世外ひ
言りそれりのゝとをを九月ほてをりりゝ家ひゝき

をてゝ言りほてそれナ月つゝ乃月ほりの
いそふ面ひくふ人のゝをこ勝ゝりくふ
ちゝのいろふいそゝ秋を巻りゝ言り
いふを言れりなふ殺そあま
それりのいゝき外くふゝさハ海をなくあまゝりを
かまゝるをいひのゝ殺をそれゝりの乃ちを
を車ゝやなるをくん世うそゝをいをてゝ言ゝ
のほこゝりふる巻りけまゝい
かゝけのゝをまやの乃まほゝなゝれ
ほくくゝさ乃ゝ思ひいりふまゝ
とゝんいへ巻けふをゝをゝて世てやゝあえ
ふくりえてきほゝふをゝりふやゝきのゝかひ掛

国立国会図書館　タイトル『大和物語 2巻』 請求記号 WA7-189
ガラス使用

ちりをよりつゝなんはかるよりあり名ふをたゝて
あの紙やきのいをうちうちへきのとうなる所
そ所日しをして思ひいてられ
とてなんやわらゐへまるれをいかにかなくめてく
後まてなん語まる所聖大夫をことをうきさきのの
ちきうての使ていく末てかねうてくちり名所
あは所けゆをにくうまつり四位ゆも成へまよ年
ふあうわられくなはきれうぬ海りわ乃こを
いをゆうう学てけまと京ふわくく所人をおさ
くやまにある人ふとん学紀伝よ成こわをいふ
あ所人をにはをにくをこさうなるるりゆて
きうんと思ふ祖よきやう乃所ふ近にる

云忠れきこの女をなんりてきこ所いとゆうう
うれうてあけそ見まこふ海所の事ゆ書をそ
いふて月日なとうふて行くりうこふかくなん
うゐくけあこと世あをぬきこう弟城
あけなうやをあうんと思ひし
あまを見くうこさまなくかあくてなんあれ名所
ゆ伝ふなうぬうしあれしとをゆをかくて学く
かくなんあり名所
お所れ君う勢のひて名所大捕うこまなくうか
ちくのこ知ゆるにおさいの文伝て方竹ふ
月ふなまてけまいゆうしとをくしなり
うと名所ようていうて名所

まひぬまをいふなをと物をおもひ人とも
ちく後手紙ぬを後るをまを
あさきまの中ね人の女まくあり名ふ人みをよひ
てあひわり名ふと女を思ひうしてをこけふ
かをこれをとこ人ふ国のかこにあるてくるを
名ふ雪まをうまをいとなりまとありひ名わさそ
よこて雪りり名ふ

あくへやふわりたまーねをりふして
くのなきそうりをそはかれらん
とるんくりをふ日いひ屋わ名ふ男女あひこり
てやーをりふといさくうなるあをにおりて
はか袴ふはまとあくやーをなくてをこあーりハ
まやをきん男を妻と思をわうくなん云ふ名ふ
ふふ名をいふハ名をまとはをえとを
波ハたえぬりのみそあり名ふ

笠の会姫ぬもとふ
女いとなりまと思ひ名わ
中粉文おりーふーかまひ名ふをまぬあさうまハ
あうひをえなんまうて思とのさまへをはまをを
序を事ーり

あふりのうさいけのこそあさうん
ひとめめくりのきこと名をまを袴を
とおりくれをまふさうをこうわけまとおりーふー
てなんおはとのあをわにくふかくてえひさしく
をとを志ぬハさりくふまりけりの乃院ふりりにとて

国立国会図書館　タイトル『大和物語 2巻』 請求記号 WA7-189
ガラス使用

ゐん久しく世うそこなとをものせさりけるいと
おやはらかく思はゝむなとのゝ人はしかるへきふを
おやはらハのいけのこゝろくきたる無とを
なふうゝみんさうのゝはらハ
はをとをあはるゝやはゝうゝ人はれて音ゝ
ゝそのゝ兵部はのえうせはてゝそのゝ月はこ
をのにものひくるゝてとこのこゝろもきをの
くさはたてまはゝうくるゝ
ゝはうくこのあきれてゝまかりきよ
きふをはのてゝうきくくはらん
くさはあくゝ郎しをおりひくをなきぬ竹人はしかる
ゝくいへはくるゝ

なゝいとそはゝ君をくてゝあるかえめ
きふゝゝもあくてきくゝのゝ城
とゝなんをゝ竹ひをゝ
豈乃余蚊はくこふはのゝくるゝ家を人ゝう里そ後
なくくといふくくろよいゝ京はゝ家はまへ
をわゝうくるゝよくたゝうくるゝ
ゝゝさくをかくくと見はゝくをわくゝ歌うれ
ゝうゝせありくくをむへをいひくゝ
故源大納言の君をくゝあくれぬゝのはむをめ東北
方をゝゝあゝ思くををわくゝ里ゝくゝ章子院
ハゝうゝえはゝくくそまうゝ竹ふくゝとゝふくゝ
子くくをくくあ里くくれ子くくをたえをゝ竹ゝ不ゝ

なんをとこうゐひろふとてよりて竹ひろふ
をとこの心ばへまつかなくにひさしくを
ゐてと孫思ふものゐるにろふれ
とあわれがるし
さひしくをあもかをあるとすきの江れ
まりやふとて むねひうてふらん
空なんほのゐ
れなりたとうれ えや波えをり竹ふくみとの
ほそ物えてまつりの人をけまとはめあろ思ひ
てふかくかふひゐひろふ あ海ろ人をて
あくといふをを川こ海なきるのおれ
ゆゑちやきこをふ乃こをろん

ひまの世う女ふのちのぬといふ人れめよを宮
こをいふ人なんありゐふ ふとあまさいてきて
任をふりたなくあるをふけまえこさるをくうか
ちくのこ思あるをく行り四乃義人ゐくほりゐふ
一ふれきこといひゐふ人をとこ波いをふくを
まりゐふ人ゐるをかくゐふ行ありをとは
さるけまいほやーを思ひありをりとをぬ人
のをけの女なんあひこりけふを見をくうん
ありひをやをきあーひとりかりあーきよ
きこりの人ほりをあるんりのとき
空やをこをといひゐれをしーん
あれ人ををかきかくをかをーとそ

なくなくあるかよかりとおうしそ
本院の小弟北方をうとものわらはゐとあはつか
孫とゆゑいふ海をうるを名わ湯殿院のみうせにて
まきわらうを名ゆゑ海さくまけまえよこ
てたくまつりを名
なくこの海の年をあ孫とをさるゆへ
いけのたまをハこゆ取るをうわ
又つりあの文よりうさのあとをいひを名人をめて
たりを名ゆゑをめてなるをうれを捨てまつりを名
をすなこゆ身にをくこひのこうこの海を
ゆるをゆこゆをりのみそあり名ゆ
ゆこをゆこをゆをりのみそあり名ゆ
ゆこをゆこをゆをりのみそあり名ゆ
たまのうこをやをなんのなひを名
湯殿院のまけのみまくちれかねのもとり
をうの聖ハをゆけさなうをゆれ草
ゆゑをゆるりのみそあり名ゆ
おねを

基の聖ゆれひとそ思ふをれま
ゆこをあゆれたひ一あけまハ
故武記ゆ文のお羽れみりまくちれせう寄
をを名ゆとはゆまを後女をををあゆ成つけく
やりうを名ゆ世うゆやう
あを風ゆをひをれをゆをむりゆ
うりとにまくそをひしりを名ゆ

てはのみをる

たもとにたちのこりたるあきの露を

あひをおはかれおもはとなかれさにを

故式部は二位のこうやをとりたんなふさえ

の年は世月乃なかれ日わすれそまうり

たまひをる

山ふかくあさとあさしやとの草乃葉を

きこのためとそこうれを清こをる

宮あり言り

れなく人同しほ子のはもとにひさしくあり

まはくをるあきれ事なるをわ

世り山をとこひをせぬ乃夕さまを

すくはよをのくかなきやなそ

とありをれをうへし

夕くれ乃りの行りふをさを神世月

をなんををふれふたをうをるをわ

をなんををふれよいくてなをなんををはをふ

あををを

くるかぬ女のもとより

うしを知のわれにとて草ゆひ結とる

男城いさぎよくふかきはをなりるん

とて

うしを不のこわれにてくさはひのよみ

かるかぬ思ひを河のしとそおりふ

となんいひくるかぬ

こがねこちの結りをうへ人なかそとをとめられを

笠令姫なんりのもとみ河のといひくえしくいさ

はくをくれ

何こひとれ角の見んりこまりそれうえの

いろのふりのさををくや屋こなん

笠りへ人をはまを笠命姫めてくりうへ人をてもとめ

て屋の立り

陽成院の二はんこ後蔭の中ねのむすめ年寄

ちの位ゆくかぬと女ふの女みこ成えをわ年て後さう

ふとひ入海いさりくをいい海ろおりまれまふ

なめをと思たえていりとなるまをくぬの人をくかぬ

ふいをひをうをあるまて思うけ思ねるおりう海

うりけまハえ物をやをしてみけくとのうちふいり

ふくりうへ人をはてみこありをふをとう年ふ海

のうををやりさんとそまうくふをにくを迷

ふりとをくれとくをいなくてくくなん

せのなくりたえと角要ふ山ふれ

国立国会図書館　タイトル『大和物語 2巻』 請求記号 WA7-189

ガラス使用

隆ちかの屋とうこゝをうせん
先帝北山殿の右大臣殿北方女房うゑ人乃海つか孫よ
海うのかわ殿をさすひ殿々わかわ殿ゝ海ゝやを殿
とゝろこまち殿ひ殿々ふふふ殿ゝまさく屋けまを
月くゝゝにきこまつ山乃りゆくきた
こゝぬこゝさみそこゝ忘をゝまぬ
きるんやゝこゝ言わ
ひえの山ゝ会覚といふ法師のやまあをわみて
あり殿よ師とくふそまゝくゝ殿大とくのを
やう忘ふ殿ふ殿ふ松の本れかまきをみく
ぬゝをなきやとのうまゝうゝ見まへ
よ世屋ゝけ殿ふゝ殿ゝそれ

きこけまいへれむゝゝと屋屋ゝけ殿弟子
とをなるまゝる屋殿ゝ孫ゝくいとこゝうせう
となる屋殿わ
法乃殿こいやこゝそゝふ阿ふゝふ人ふあひのひ
たゝ言わおこゝれもに殿こをこせ殿人屋けふ
それをこよおゝふ事ゝとそわのやをを
みきとふいひそひこのきかくみ
となんあり殿ふ
くいせうといふ人法師よあの屋て山ゝをむるに
殿ゝいひ屋とをれ人のなる屋をれをおやのもと
ふきぬをなんあゝひよをこせゝ殿殿の法
たゝわのゝを殿ん殿ゝ屋て殿ゝれいゝ

国立国会図書館　タイトル『大和物語 2巻』 請求記号 WA7-189
ガラス使用

事をきゝて法師みるをぬる人をかくうさ記
あといふものゝいひそれをまことやわをぬ
いぬをわきまへぬ物ちはるまゝやぬまくを
よのうさをもなげをたえぬゝ
はなゝ人ゝれちゝの兵衛佐うせよゝ後年の秋
家よこれうまあまをてゝひまわさけ乃こゝなと
をいぬはゝうゝ思ふとれあを捨なる事と海らう
ともあるしをこひをうあさりゝをよきをいちち
わゝまりゝ海らうと
あさをの中みきまたりのあゝい
をぬくまふくゝうれゝかゝまゝ
をいひをうゝいをうゝ

あとあゝいゝれををはゝなん秋きりは
まゝさ捨よ乃こ思さゝとあもゝん
海らうとを奥之友則なとよるんあり々後
故武部は文よ三条の右れはゝとゝあと上達部なと
はいゝて奏をはて奏うゝ序あうひなをゝ后をく
和ふけぬまはゝれ給をひはて物語しかつけ酒
なとせうゝ女御花をかさゝたのはとゝく
をゝふへゝはゝまゝかゝ后ゝ歌を
世ゝゝ乃をふよはゝぬあゝさゝ
とをんをゝ后ゝ人ゝこの程ゝゝまゝとよゝゝ思を
わを捨ゝゝ言ゝ
故右京のかゝ宗于乃君ゝ乃ゝ八ゝ後丹我方の

国立国会図書館　タイトル『大和物語 2巻』 請求記号 WA7-189
ガラス使用

えあるをいて思事と思ひてふるひ舞子乃
はなくもふ紀伊國ゝわ石ばさきゝ見ゝ城なんをわ
たりけるを遣すく人さ妄禍々ふふ字さ雪のかゝ
おきけ風ふけ井のうゝに雪ゝなくこれ
なりりふさんやゝ拾をゝけまん
おなり字さやう乃うこ豈の金姫
よそなゝゝ思ひしゝゝりをゝけの秋れ
見くてぬゆ免そくてのふゝりゝふ
章子のみゝふもゝ字さやうのゝこよてゝそ
まゝりゝゝわゝふ
はゝまてゝふひとをあふへくひさゝ乃
草雪さゝよあそ句ふ見ゝ見れ

み
ゝゝれ乃こふふや面さとの不れゝて之を
をゝひゝくゝやをゝりをを思ゝん
雪あり名れふゝ見たまをぬ知ゝん名わ法門
法らんして仏事をあまこ仏法ぬとて拾う法乃
若よなん見をおゝふとゝきてしゝはうひなくゝん
あるこ一や稽雪妙ひ船頭ゝ院ゝ不ゝて年わけふ
うちよらんあのゝとををきゝ法れ者
ゝゝきをなゝゝにわき拾りゝむ
字さやうのゝこ乃ゝとに女
いゝ乃ゝとゝゝゝゝ不雪法ゝもこれゝふ者
ゝゝきふ法ゝゝひいてなん

堤の中納言殿の御使まうく次内山より院のみくを
おりて奉る御文を御人へ引そへおりて
まゐいと哀なる雪のさかなまい雲ハ雪ちわいと
あはをたちの御ぞやうす見こけまをくなん
ふるくとれあくへにきるこなまは
おほうち山と申ふおそのわくる
伊勢の國ふお狩衣のおりて海くさふ法
この中ふうん勅使ふそくふ竹ふく
ふ徳ふけの世ふのふやこ中ふ中ふ
ふくさをちと世れうふひあ
はをおりて奉る法狩衣の
の文となんいひふ法いを
をかりふふひとわを

夜上して我ハえ世さりけふとときにふたわくふ
かくさけふはかをしてあまりのたあ
れなりをふやいハ夜ふくふ
先帝のおれみふれ法むをめを一条の君といひく
条摂政殿のはをりさふひ給ふわふくを
あるぬ事ありてまざて竹ふをゆ条のくこのめ
ふくいを夜をふるをく
たまゆのうりとふ人あるいわふのをふ
あけおりよあけていは思とふ人よ
伊勢のちり法みちのむすめ殿をなさふの中ね
の玉よりを世さふ久ふ殿はよそこなをくふかひ
をハ右京れくこふひいてくかさらひくあふに

よこてをこ殆さわ々所
そくはゆれかとををまきなあさあれを
見たそ中しくあるをとり々ふ
樣の見てこれ武勢は交をこ殆を所時を交ふさふひ
々所うるひなんこれおとてみやをいをめそこ
をおりひけをわ々所ををえこり殆ハさり言わ
ゆこ殆れとひはわむ殆々所をかきとうへくとあの
わうをふの殆をを世々殆りきみの神ふか世々をと
ら人こはくこてはらく殆ををそやへこうを世々所
はくめともかくれ思りをかつむ一の
ゆこわわまを世所おりひあ里々わ
源大納言の君は殆をもとにやうこをつひ不意里

言わ殺うしてをむときさあありわたうむ人
まてふ海はの事をつひりいひかりりをひふ
々わはきくなる日はれとくやこみはむすあ
はの孫子はこ海あやはこをいひこはの言わ冊ま
紙こら海を殺しうる里言わみはたこれすと
ふをふといふ人はわ言わそれををくはわま
ちりていとかれうむ人あ里言わあ遠はは人法を
ひてふ海はの物語し世中はくの女き事世々ん
のあを殺なるいひくてうのたくの殺殺々所
いひはくを世ををうの殺ふををうを見ふを
あわまといりのてきこり見こま
とふこ殺々れ殺きくを殺ををしをを世をあはまを

てらく法なんあれども所のあやしうとうりの世
ふるそいありけれ
ゐたうと云法師のある人の法験者はうまうり
ゐたうとうりとうく老中にいふ事あるはまき
たるとこそわけ
さとをいふやあるまうけたくたうをれ
そうにてうかきまとやあるなん
となんをぬみあの人のはもとにまたりゐた
ゐさうけまうあをあれたをなうう
なるをたゐめそまうあひきん
あの大とく房うたけ御所れまへみきるうけを
あん勢うせゐ所それあつまくうみうぬつけゐた
まうあはうひきれあくみあ者うきをとれ
あるくうあしなそやうの中
なとゐひてれとなひしにゐうあ山ふいりなんと
すといひくいふゐわうれとなていけくふうあうん
とそあのあやあうあをあひぬとありしい
いたをそをいひやあ竹ひいわゐれ
なふうをふうくをあうにまのつきれ
ひえをとやあ堂ゐうをまわある
となん云たうけゐよかをといふ所うあ有成ゐう
れなし人ふある人山へのあるへまを月をまき
と成くやあゐゐけそをいへをけまを
のあわゆくやまれ雲井乃と成ゐれを

月をちらの空なる所りのみそありける所
とそいひをとせうりをふうくりとよかりぬ事
りあるうう人ていてきをれ
のうふとまうきのきはらむめまあるを
ものめはちをみをまんかをるを
はくこの中納云の君十三のるとこりを毋帰恩西を
内ようをりをふはめに法内をいりくたりめに
らんなといをくくこく思あけき物りりはては内
ふよこてたくまはりれりふ
ひとはやのを海をに所ら孫とを
子成思ふみちふ海をひあるりふ
先帝いと義ふれりりたりをりは法人へ
ありはきと人えちくす
平中うんのんのみよたえてりち狂へくあひうり
をりはてりちりいひをを世をる
うちとけくをこを孫ほらんはまりを
露のをさのをくひりなりり
女をり
ちく露りををさりまををひほらん
わまをきく和りはいその孫すく
湯成院りの一条は君
おくや海りあるをいまてうひは
ふりををみちのりりを見ますや
先帝はをとを所新はきをそふひ竹ひ

更衣はとて　まうのぼりて　ゐなかひとひとりう
まへつぼねのさうぞくなどかぶ　ゐぬきのすがた
おかしうして　ゐなかびたるけはひもあまや
よそにのみしてのとけうるあらん
おなじみうぢ　殿院のみこれはもとふ菊をつけて
ゆゑてはあぬ人のおもあてに　宮あるものを
殿うをうをうぢのやとのきく
殿のうんのはをうり
わうやうをかいろおるきをなくハ
よそおをきくのはかをとまりや
ういきん山ぢのかまて
くをなりてて　ぞのきをひふいるものを

うさ世をそむきわうあるをわ
殿院よりのぢ
おなじえをうえをくをあきなまい
ゆるかあるかゆるかあ
序をて
はかのをとをきをとりなんをたをれ
ゆゑてををしとそ思ふ
あまをのぢ
わをたをれかのあをきなうう
うう思ふあるものあそなわをは
湯殿院よりのぢ殿上とぬみち　ぞいふ男なあり
のんあありをあをあをとてあをうをれ

あきのくとまくらんをまうことや
ちけなさをり千孫をはなくらん
右京のうこむ孫ゆ紀の五三らうにあさわ々ふ人
ををやうをしておやゆををたうう〻ふもまくまれ
けまをけ〻ひうんかさへゆうんとそ人の國へ
いふ々ふゆてありひ々ふとまさちのもとへふを
てをこをさうわ々わ・
をほわしてゆく者ひふ者とうそあれ
いのちをう孫へうんへ星〻ら世〻
おとこかさる者なく思ひ々ふ女城をさて人の國へ
いふをうゆ〻しうとまちく々ふ千をふきといひ
てきさをそれを

いふこうんといひをわうまひとなまを
かさる者と幾け者なを城そきさふく
とるんいひ々ふ
越前捨ちうまをわ兵湧のきさといふ人ふ住々ふ
をゆ〻ちふをふをまて又いふをうさてよさ々ふ
夕さまけ人ちを見を孫をあるさとい
うとさ〻弱ふまうせてそり
女ち〻
こふふちそふ々ふたりけまくをなくを
ちふれ〻うと思ひ々ふかを郷
近江介平中奥むすめをいやたうう〻ふさ々ふ
城おやなくうをてのちとうをふまそ人の國ふ

国立国会図書館　タイトル『大和物語 2巻』 請求記号 WA7-189
ガラス使用

てうなきところにあそびくらしをなりまとりてう
をのかよりてをとり陽さわらの
をちこちれひとめまれなるやあまの里
いる井せんとおもひきるや君
とよりてなんをこせちりくれ見くるすをせて
ようとそなきくあまの女をいとらうある人のをり
同しうまをのみちれくふこうん院の三乃君と
の女ふありくふ人くを殺ちといふ所にをこをり
をれひをめとるにをこせたりくふ
みちれくれのこちのくらのくを殺ちふ
れりちをまちとをいはこをう
といひたりをりうくてをれをすめをえんといひ

けををおやまをいとりくをなんあるいはをされを
かうんおのにをといひくれを京よりくとてやま
ふきをつけて
はかりをきりやくをりをかをけなく
井てのの山吹うをあくを
と云をりかくてふやりれみ山と云事を恒忠乃君
の女殺にりくふと云なん山塚のあるし殺くふ
れをそれくをれ乃かよひ殺をてうれ
やりをこゆけを殺をのなし
をなんよをこりけふ殺くまりれ大をこれな
をこりる殺
をかりあのうをあまやたえにをん

たとすかとわ乃見ゆ所とさ所ま
とゐんまさくふけて山ゐ海くけし むをめと
おとこして京よのわわたりわ れを安てゐまりわ
のかりりの〳〵紗なるを所ゐたまり勢てといひ
たわけまを井まの山吹う海発て出いへを
くふ所めさを逆なんみちれくふのゐをとてをこ勝
ちわけまを男

年頃ためまわてりゐくあろをてを
きふ乃涙ちらやゐ志ぬらん
とりへをくわ在中とうんして侍くへくち
くふ人女のりとふをを世ゐちくふ
わを所やゐいてくありくいりをふを

うさはをれまありの海さちくふ
ふ糸れあとりへ人ゐをくわ男乃ゐとにわうかく
を忘より賓で女のりえうちくを書くくふをと
いとたりくをゆゐ世てくるんくきさちくふ

恋を思ひなゐくくを勇をやくとさハ

くふを於屋の所りのふうをくを所
章子院とうゐをむふいちあゐのをみ於うして
まを外事年ゐありく海原院のいを れ引海く
侍くら連たりくふ所て京極の所是所ひと所乃
海さうしを乃をしてわくら世紙ふくわ書のう
ゐを言わとまをのへふみそう〳〵とをいと思の
かりりはうくくし紀事を御申言わ長上人

なとかよひまへつるて夜のはかのいとれたるきと
とこれかまゆりをたよ席らんそなといひ
て見ありをてふと殘なんむをひつけたりる
あけそれい

よの中のなさ記せるのこなるゆけそ
そのふれかちのはかとこそ見れ
とのりそれ人こ見くかるなくめてなりまこる
けまと世のはさうしれちさまへはとも要をう
さり言りれとこともれいひそは
かちのそれりりのはさくを見ゆるりか
うへなひかそはなりなはへ
のうさひのきとりひそふ人浄蓮とをいとり

なうありひうふに中うるそりかをなく契く
ありふうをを云ありりりのうさんれ云
思ふてふちる後をしにありそはを
むりれひとふなる殘いひをん
と云をを勝たりけまを上さう大とくれを
ゆくすのをく勝ををうぬあるふを
きをにうさるのかとそいひそふ
故右京のかを乃人のむすめを思ひて要をうりふ
をれやきこはあてハくをりてあを勝たりけまを
るひそ海りに言りゆてあしさみ積てやりそは
さをあそいをひ乃頃りをあるかるめ
なひをうえる殘うりそあ

平中はまくるべき思わりなき女城めれどもとりぬき
きてをさまりわびまくけなるまとをいひてあ
つまふをいひ出ものわびしめるあり
きんらうとと思なるうえとくめにいちをやを
云ふれちのをまえよりてはあのひやうふり
よりうくまてたくまて云はる在中れ思ひのかの
ふあるるすせくいふりのしし物とまわれて世う
そとしのの人をの袍をはなんれりふと云ふ
女はくこふ掛なとはくこそりはとりに解わて
まつりとのをいをはるまと思ひ言うさて安いふ
言りとをりまありてをこ勢ふりくは
わをくれかわれやしぬるをれうこと

けさうちなるうちをうりはうこと
南院のゑ芸をかをのりこまてあるをくは兼雅の
ありくるいよのこ城けをうしくりうんといひ
くれは是雨の席をとりの内へなんまいふとを
をこせうりれを
たまをまをうちとうへ御をいとくしく
くけを見せ一宮おりふなれくり
といへをくりみ
あけおのこをけきこやゆれりゆくを
本くく袍ねても孫をのをこそなく
なといひ言りかくて来をくは御をうへ星ぬ
と解うひいまを

三孫とそやせうを何人にを解ハ侍
いとい所うこゝもあくちあそをれ
さて一部ゝうるはけまとえきうにみゆ貴に所る
やきこをるゝ所をとりのをいひて和ゆけ思う人をる
孫といひ名れう人をるゝ所りをうて戸をけゝてあけ
さうけまを

わまをにハゆ貴ゝ所をうにきこ孫とや
たちう人まとをあけぬいうとを
となんひて右たりゝ所ゝく尊ゝまあて袋
身えわこまをいうふをまゝ空ありひゝ乃そきそ
思れハうゝあそな袋いうとまくけるをしゝ空なん
殆しうとやゝこちゝの思を行ゝ所夜あうをゝれい

ちよふけゝいなおほせをれなきゝ所ふを
きゝう尊ゝをとおりひゝ所ゝ郎
又やゝこ面乃ゝりゝ所ふ衆ちの出をまち言ゝ面
まやさうゝうんあさうこゝきうい忘ゆそ
いというををゝゝゝ乃ゝあれいうをゝうしゝ小要
まいらゝあをにおうゝをとをゝすていうふゆめし
う面人ふといんをゝれゝ尊ゝこ
きゝ袋思ひ記まゝれやゝとおりんとま
西ようひゝあゝをゝゝ思面袋なき
枇杷面ゝうゝゝこう源ふゝを末れありゝ所ふを
おゝゝあたまへをゝゝおゝゝ世をうきつけをゝゝ所
ゝうゝゝ袋いゝゝゝ君ゝなゝしはの

あるべかりけるをこそ
帝も
うしろきに
ものをのはれうこそのまゝ
城
ゐてそれ
ものあさ
おみうみちのくふのかみ軍
なりてくるる
時それ
むもめ
の
人を
豈
命
婦
思ひて
あひ
かるらひ
ものむ
のはかむけ
めとりくる
乃
きあ
うちきあ
さを
ゐ
うる
れ
ゐ
ものとこ
ようくあ
意
さまさ
ありを
ありくる
ものみそ
ものを
とこけまを
女めてく
なきをかれ
ひとり

豈
命
婦
思ひて
みちれ
ものやま
の
ゐ
とこに
あくをの
の
ゐ
の
なるい
ふ
ものを
ゐ
ものとこ
ゐてあ
ものくみ
ゐ
ものを
賀茂川の
せ
ふ
すの
ゆ
いを
やりて
極て
そ
ある
勢
ゆ
色
ものや
かくて
この
男
みちれ
ふ
へ
ものを
たるに
ゐ
ものを
ものを
ものを

とうなたふあさとなんそそ来るふいとかな
くてあまぢ成いりのそやとひふれはるひのくし
ゐるてりそさふ子きんゐりふふをんふ
ゐれはうれむまやくとまちるひし
ささをひなーをゐるそしふけふ
をよさてなんれまふけふわういふて成上して大七
といひをふをうう山りしてくふ人ふ子ねわて
うまの住うけくおやのとまふいくふみなんをふふ
故武記に文う勢紗ふふ所をふけうれのはこをう
花のけうりふなんはうけふはくうの中納云の
漫うあひふふ
さ紀すりひうけまりかとのや夜はうう

ひとの世よりをひさしうう言う
三条れ右おくの降をーー
をふしくれはふいちうとをさ紀ぬへー
まるあひうふふひとはれそうき
れなーー文ふーー海ーふふ所れ真子院ふをこふひ
言うこれ文のはとまるーー兼盛まるうりめーー部く
掛えの行ひなをーーふりうれ世れて乃ちうの院を
見ふにいとはふまるの里池乃いをれまうきー
あを袍な利はまをふふふ所
いけいな成むーーなうれふうる見ふく
うけ見ーきをのなきそう郎し紀
ひとれくふのうこれうふりふ所むまの乃はふむけ

国立国会図書館　タイトル『大和物語 2巻』 請求記号 WA7-189
ガラス使用

城はくみの中納言して云はせ給ふ
あさりはまをいひ給ふ
　　ものゝ
　　ものこゝをゝあるはをひ孫をもみ
　　まつとてさへをあけなはらはの那
とのゝ給はとひきよゝ給ふ間し中納言殿の
ちんてんはまへにすあてと城をとてをゝ給ふ
ちのゝ給ふ人外げふ給ふ拾さは御ふ人をれハ
やゝちのをうつしてうへしひなく
　　まちと城りの乃こをゆる苑ゝ給
とゝをゝ給ふ給ふ中なうん美人をてなゝ給ふ
人のかゝのうこすてゝをゝ給ふ御ふ給ふ
給ふ東中ふうん

きゝゝ給ふのをゝや海ゝゝ孫とも
　　ゆ愛はまふくあとをゝひん
とをんゝをのひゝ給ふ
拾のゝんてゝ乃給ふもとにうなをゝきゝゝ給ふを母
はは悪ふきゝつけ給てゝ給ふ物給はけまをゝゝ給ふ
をてよたちわつらひをゝゝゝふとをてゝくやゝゝゝ海へ
とをてゝくのをゝ海ゝゝゝのひいまゝ給ふ
ふゝてゝをひゝをゝをゝこゝ乃海給ふゝゝゝ
　　をきてゝゝへ給ふをゝきゝをゝゝすや
ふまをおなゝみゝゝふ給ふゝ給とを
　　給ふのゝ給城給ゝゝ乃ゝゝにやくゝゝ給の
　　給ふ里をゝゝゝふ給ふやのゝゝゝ給

かくて志賀ひとあひ給ふ女院は八月十五
夜世をさり給ふ素覆の人とあり給ふまい覆のふ
みのんすてをはふまーけまをせあてこしひをお
まへ覆給をとくめ言ひされとあーあるをけまえ
えとくまりていをき素覆給給れ給ーたり
世のとりあるくふなきをとくめきん
きを君ーー世あまひーーをは
豈令姫紅葉乃威徳の令姫みて出うりるふを孫西
のみこ見給ひきはうふ面とひ覆そうきるまひ
言ひはみこありりるふ給色事ーふ
うらはふ面とふまるを海と学うーー
なくはあ覆給をあまるかゆ給れ

見この帝ー覆をいりくはりきんはれーりり
又れなーみこふなるーー女
ちりはまのうにかりうんうきるりを
なこはハりをありあそいせあ
宇女院の花れをーはりりはるはは南院の君達と見
かきありまをて言葉なと志りりたるを京うを京宇
きそ見れとるはをゆうはは家きとれ
世ーなるりはかとられとを
あと人のをありりし乗縄のかれりむをめたを
所なさいりをふーひりるふ志海故捨中納云れ
表ありりるふたの見給ーりるふ文ーー
糸乱事ーたえて里ふありりるふはりはとひはハ

国立国会図書館　タイトル『大和物語 2巻』 請求記号 WA7-189
ガラス使用

うを立て月日わたりて北人来里を尋ふりみそ来里
はやせとひろれをつゆ[illegible]ふりさふらひたまふと云
名れ陣ゆこそそまりけり
わを主一世毎のめし一ひとをあるとときて
いひしくしくのをいつついみそん
世をんはわ名ふれたり一女れりとふさらにをとを
をそて主一城なんをを勢たまん里々ふ色事ふ
くりこ海乃山りあこ世つきーよりを
名里山をなりーと思ひーりの城
となんいひやわけふれなー女内乃捨うーふ主こ
名ふ時思ひてかふひ外ん海わ言り歌ある世まを
後上ふつゆりあり名れわ海興そうれ

志とこのほくに志ちわ外人里々ふを志ーて海
乃わわ名れむー海をひまうんをとそ
たりふひこはめとわりをりのなくい
わのをふここをうんさふくの
となんうちいひそれをはうまときてふとそへ
へ外ふ主わたふー女れとこそれわれー世ふ海け
のゆ城ゆけくちのひ名れとをれふ名海海ふ
いひ海わ名海
わをくふく男を人れものひちうひて
ひとのいのちれ海ーをわふれ
をーハ要主うけれなー右近りくそへく宰相の
志なんをを外なといひ乃ふりはまとそうあと

あるはけきいつれにてこそふるてたくまたちわくるる
よしおりんあまのひ給ふぬるをひ
山なしふるをいとやきそ
となんありくるる
むかしのつれさらあろ大納言あるまいる
たりくるふ和なとのいふ海り勢をすく後て尋
よめとのうあひくれふと濃ちくる
きふよりきゝの屋けりうぶけく
わうふ侍こふとうまに城さそりん
とよこたりくれふなくめてたまふくに通し
かうをうにわうひをそ後をうよ川く
ちく後やわうやわりのふつまに海て

となんよをのふくるる うまの國てかうひくる
ひやうこれかこるるをくるれをこのれくふるを
くるふ女城とさて京へのわわくれ雪乃山りくるふ
いひをこ勝うちくるふ
山さとてわきをとこのそるる逃後れ
ゆくれまふくふうくなるらん
雲いひうちくれくへし
やあ里てかふふちく後をたえ思る
ゆくをとあふるあるわそけて
とるんをーたりをん
れなーおとこ紀伊國てくるふるさむーとそ
きあをやうにをこ勝うちくれ女

ぬのくふれむ海のうらみゆくひとを
風のさむけをかりひろ袖し
と
きたくみのむろのたくなりけるうら
きこそふをあのなきそうかしを
海理の若よむまのうこをけふ時ぬれみるうら
けまをうこたりうへふまうはとそなんの事をあぬ
といへまけまを
あまをなうぬうこををほをたうふまを
うこみんかこをのれそまひしれ
かくてひまれうこいのれるをけふあろ續を
をこせたりけふ

ひのてな波のうろれひれふこをとうん
波をしあてうわまをとは思と
をいへまけまをうをしを
あ波うりのあをれのふのう
こうをを宮沿のへうとへうと
又行あ女よかうへうをの時をめて続うを
あけ思とそいそむめそけうはふのれ
をまふうち思とをひとにきうをふ
れとこは巻あろよむうを
いうふしてを後をきなんうはゆれ
へまそのうれのをあまり
と

うゑかなかはきこゑうかはさうかゝはてゝう那
うへはてゝのちをりのやかりふを
おのゝ女よけちうく掛なとをいひくゝりて流て
ゝをて屋わをかは
ゝ流をゝきこゝりとゝめてきかしゝい
りの思ふすを越るやあるらん
流理の色し
たまゝのをおゝゝふゝとをなるを言わ
ゝ流ゝのもをゝゝおそありゝかは
おなゝ女ゝ五兵部ゝ交流せうそこなをゝこまひ
言わおゝゝ海ゝんとのゝひゝをれやゝゝかは
者のをとゝ伺ゝうへきんゝれゝけの

ひとゝよゝこゝの伺ゝされゝをは
三条北たのおなく中おゝいゝ海をゝりゝかゝ時条乃
使ゝゝく遣ていてゝゝ紛言わかゝひ紛ゝかは女れ
たゝてひゝゝを成ゝゝかはかゝ家ゝなんいて
者ゝあふきりゝかをゝをゝかをゝをはかゝしうて
なんおをれゝゝかはひゝゝ門ゝ海へといひやわ紛へ
ゝをゝわゝゝある女ゝをゝをれゝゝくてをこせてんと
男ひゝひゝかはふゝわゝなをゝいときゝゝなるあふ
ゝゝの者なをゝいをゝゝゝゝうてをこ勝ゝゝわひゝ
ゝへゝ者ゝゝゝのゝゝのゝゝゝに書ゝゝわゝかは
ゆくしゝていはゝとまいゝ海をゝゝひをゝ
ゝゝをゝんあゝ遣みゝゝひゝをせてん

とあるを見くいとなりまとてとれかりてうへ
ゆくしとそいみ多なる歌をかりたなめる
なを雲いくぬハ昔のはるゝなる
故撰中納云花は行やいとハ君をよそひ給多る
年の元をとの所こそあるぬ海
りの思ふと月日はゆくを忘ぬ海
あゆを雲きふよそ思とうきく
雲あんあり所ふ又かくなん
いとふしてくおりふてふと城を
人つてなるてきこうかこらん
かくいひくてつ丹ふあひ所ふ
きふ於人すくれさるめやゝ拙人とを

たえぬをひとのちく海ある多り
是を於ゝ中ゝ納云歌文乃日をを年あるよそひ
たくまりおてきふあをあひなんとゝ多ふ行
伊勢は歌文の所うゝにあひ物ひふ多りいふひ
あを多ちゝ雲たとゝ思ひのひ之りて多をて
とまたり物ひ多る
伊勢のうをちひ海乃濱ふひ海ふとゝ
いを海をうひをく於もあゆ
とあんの多る
故中ゝ勢文乃小ゝう勢於て海らいさをんさら
をひををして三条右大臣殿ふをを多りは行
なとをゝて雲はぬふひとあハをくしを於り

ゐまうれたりしの小方は行とう宮の君を聞きて
はつ海りんとおもひ給へなるふりさけをとおや
なりかりをれはゆ給たりなるふりかりいりくなりりん
方兵部卿殿のきを伝法ふりのしし外々なるは比そ此は
ゆきりてくくとなんきく竹ふ々なるふりさて公つ美なり
とやれかりくんりとの文ふなんわりり外ふ々なる
を所よ法是ふ乃法ゆとりわ
お行人のををわみ毎よをなるへきりり
いなをとうんなるふのかなりさ
文の法をりり
をりわけとおりふ方をとくひまと
うひわなへくをかりとあそ幾け

をなんありをなれたりたりなりいとりくみやを
おみりをしおりりまさは法くは式記は文なんをを
たてまりりかひりなるをいりくをりんおりりまさ
りりなるあり秋文乃法りりとりはみそりりは
たまんをりりるりりをもむ西文のおりりまはぬ
りりなとやをりふくおくりり
ちりや海りりおりりゆ文の紅たえて
いなををおりりは比ひとをかりりる
とりんおりりなは色あをとをふかりりく
て九の文は伝法のをりりはりりを勢をりりりく言り
おりりあり法是ふと文おりりはりりを成りりれを
左のおとりは右京門督よおりりりなるは比はみをり

竹のうれきこむこと〳〵しう後ひぬときく竹ふ
てれとくこやをむとゝろふ
なこのうゝこゝろ孫とわゝ清これ
うゝやゆゝしくをれもかゆるう郡
なほ更ほとゝのきこれうゝ世ほてはてて乃月
ふのをてはきれるすなといそう後ほ月の
れをゝ後うをけふ月ふいそのぬほてをの
いとなうまゝ月ほかさまゝふ
これゝ月きめくゝまていそてう後と
けゆも人ハ月こはそあうゝふ
れなゝほゆふれくゝたのおとゝ乃陣ゝたくのゝろ
ゝうのきこかくゝ乃竹ふけふ後ほくゝて竹ゝふ

此尊子れみうゝをなん内ふは世うそこゝやゝこ後て
いろいはれこれほゝふけうゝれれとくいをきよう
ふをまううゝき孫なこきのふゝをふさへの文ふ素を
れまふゝこ後のは世うそこれいとうれゝを後まそ
うゝ色ゆれこ後ほうゝなとやゝこ後ゆて後ほけふ
ぬく後乃ゝかなゝ空思ひゝなきへの一
うゝこみ乃いろをまゝをあうゝわ
とそなんなき竹ふゝふふてれ程中弁にふん猶し
竹ゝふふ尊子れみうゝくの後とまにあほふれとう
大弁ふほうゝまほうのへ後ゝをみちをくう
山ふいろくれいとれをゝ後うゝふをうゝを
なくゆそれまふこれ竹をあうんにいとけうある

国立国会図書館　タイトル『大和物語 2巻』 請求記号 WA7-189
ガラス使用

所にあんなりける所かなにそうして世さ世を
らんなとやまふさつ丹てり
をくら山さひのもみち紅ら葉ら葉ハ
いなひとたひのこゆ貪まさなん
となんをくらくて海り竹ふく拾うし竹ふくれ
いせ者うあるあとなるとてなん大ねのわうと
いハ事はけめのひくら所大丹に季縄のか將をそくら所あ為みくをのひ
くら所苑れり後く成ものとかなしたらんをんと
ありくら所をれりわを迷そあり海さるくらわ
さ迷せうあやう
ちりぬ迷をくやしきものを大井川

きしのやまふ我をふはりある
とはのくれいたう表りたまふさいそなあり
ありてなん序絶しくら所
はるかやまひをいたうわらひて
ありをたりて内ふまいるさくりを江ち忠
の君掃部助ちく義人ある所あるる言わそ丹
かりんのらけよあひさいひくふやうみくるかち
をさうをたりをて孫といと聞うう仏ものと
なく結迷ハなんまいるたくのちをふく孫とかく
まて仏こをまるるいてく拾さてもわ系るこん
ようにそうし竹人なといひとさてまりてぬ三
日くりあるるてかはのものくりをこ勢

国立国会図書館　タイトル『大和物語 2巻』 請求記号 WA7-189
ガラス使用

たりけるをとれを
くやしがりて後ちなりけんとちきりける
きふをうさをといをは海ものの磯
とりてさきちいをあさまくて涙をうかして
ぬらひふとふいのくものし弥生とんをぬらひを
いとよくなる利のひよさあるといひてかくをきく
みさうをきてえにこれうさいを海まいりて
といひてさとにをる海やちかみやわてきれ社いと
あるものとあるものの忘みうとくていてうちてきちち
法華てのわてをせりをを系あそせうちやうの系
あるをいを系つ系てをれをいとをいうちはを
りくちりてうをさつ志ぬるををりせうそこ

いひいるをとなるれうひあいをうかしく
てあをくくをうりをうくてありをるをしく磯
うんのををちををうしをれをみをををを寄をなく
なんなるををうををひをを
古法をふありけるをりをのひとを孫といひをを
人やをひしてよをくあをてををなをををを
りをてををを
ゆくひとををれかをこうんといふものを
をををををしやをふのをのををを
平中をいをあのをけるをりをりををいを
をりあのあをををを人をいちをいきてをんいを
あををををををれをををの志れをを

国立国会図書館　タイトル『大和物語 2巻』 請求記号 WA7-189
ガラス使用

いちはやき事ども日ごろ人の家の平中色このみ
男にはなうけそうし言ひのちひとりふたりとふん
をこせうち久しく女とも久しう面なき利し人をなほ
ゐ男一枝ばかりはかりあしなんこと聞わ久
さう久しかりとこれとうち
ものし一枝のこととれうをこれ見てのとを
とりへ男久しくはむさうしのうこのむをあはれなんを
久しかれなんいをもれくい移りてこと男殺
とと思ふを久わさまをそれむさうなん信を色事
をしていひはきふるかうちきよをよかこと云く
なをしてそうきりうう色ものなんはうち久しいと

いたうへくけさうしけまとと思あうまてれとこ
なとをせてなんあり久しさまとせちりよくひ
久れあひふ久わをあうさにあをこせたよふ
きてをとをせをふうしと思はうしてみの日まて
色女ををこをそれ和ちうさまちけまとあうさふ
たうう人なをいをはうさにりのしはときくし人を
はりうくかくあひをわはてこうりうそいて風
をはりわはうしくあわとも侍みををまをたま
をあふうさ色なをとこれかきいふふらふをりひ
ゐ者うう殺人をいひ久れ后ら後うくをやと
思ひくかきをりそれ殺をしやや思ひくきて色
きさこれみの日をみををを女をくうをを

国立国会図書館　タイトル『大和物語 2巻』 請求記号 WA7-189
ガラス使用

六月ばかりの程ぬしの女孫をのこなきてものを
くりしぼりうしなひ人なと大ていとをかれはてゝ
のこる屋とは名ばかりの家に男ばかりあるを
て屋とおとなしきをもとなまふてんと云々
物をいとてあるわ居をしたりふ人をていと
なうく里ばかりをとをいきをてあはうあまに
あるに名わはうふ人あるまてあれとい
うひもの中いをかうきなるきに志なんをはふ
ゆをもとかまはかくこふ成をはをこうひとはよせん
くかまをくかくか人こいひさくきをせるん云
をかうくををかやうい平中そはあひくふはと
めて人をこをんと思ふくをふりつをはかゝ俄よ

りのへいはをとそうるいまてうり姫一たり
をかは成をひはこていはは海まそ孫こわをはとそ
せうえうをうりををさ所へ居をいは海して酒のに
のくをりてはうにりへしはをはからうしをを義
まをうり章子のみうくはをに大井り
ぬをあり海ぬををうりみるををさあり姫ふ
いをうをいふりわをあはてうへをはよ山女乃
うをいうんとををふ平ふををうをはけををはをを
をかたうふかをへ院の人をををいふををりは山
女いりふをを海うなくあはやしを思ふらんと意し
ををよをふたよ日をとく書はなんいをてあををは海を
をりくりはをんかつあをを御らんとをいはあて

思ひ名ふ人なんきそうちてをたそをとへと
れそうれ若り物きこえんといふさ乃そきそ
思れをこれ源乃女こむ孫ぽふれきあちこをいひ
てふこをとりて思まはいとくりおくこそり
きまなるこををあくいるる孫てはくをたり
いとあやをうれりてくいうこすを思まは
あまの川そらなるりめときくしる空
わりめれ まへ乃あこをこるを言り
とふこりあまふ成きらなるへと見るふ月を
白思ふきを成まとりてあの浦ひみとへハ
をやうはくれるし孫くきうかまはるこちらき
乃ふをふいるりうなき海とひ外下をの石ちゆも
いをむ孫いるをなんはりをふ給まり席くり
をといひくなく時よれとこの石ちいをいるりふ
てうかふふをれありをれ成してかくまひしまあ成
見りらんと物をとうひなりあをしくを事くく
世成りるふなくこあり寄まてをやをとを
なものかをゆをるやをなるへふ
いとあるきりをまを物をきこえはうりゆ
今まひまてとるんいひうりくふりてをるうら
きふりをれかを女を思まこあにへよをる事乃
あるやうるをりを浦りふ人をみひくなく事
り資まあり物ををよきこえんはをりを角よきを
まへとをこれ思ふりふいるへをたよをれかる新

さりわをいたりて牧をいををうふいとや
思ひんとてなんおとこよそふいうお事ゝ
志ゝ思ひけるとのかおりて女
戀しきふ志ぬるいのちを思ひいて
とふひとあらいあしとあ人よ
かおるを
かりにふわきさてへはゆの弟れ
きしいともにとちりをさてき
中奥のをはのをけうむをめをのくをよわはゝひ
て上さう大とく瑕ゝんしやゆゝ多かゝに人と
かくいひをちなをゝをゝをゝをゝうをゝゝ思ひて
ありへくく人れものいひをゝとをうさてをなはをよ
ゝ思ひいひをうゝ船といふ所
ゆあわていゝうおとこうひせわはをうふいを
をひゝう学をゝゝ京をおりひ御ゝ川ゝよ後はの
事いと義よ学えをおとこうひゝわなくくうう
ゝてゝをゝゝを見れをゝなん見をゝゝ多ゝを
ゝをを思ひくをゝて見をゝれゝう思ふ人の
女をゝをけふゝを

をゝをあれくゝまの山よりるひとを
たとるくゝをゝ人をきかん
とけをいをあやしくたまゝしてをを世はゝんと
思ゝををくへをたゝわをおゝをいとなやゝ
をゝ名れ又ひとゝわ海とひをゝをゝかくてゝ山

ふりにたりさてをこ物がたりけり
うらうらて思ひわをゆくこひさを
うさてなきけらうく祝ひの参
と
ゆてるきこわれ言わうくひとの
なくれわりとやおりひいへ寒
空なんいへ里々ほ
わつたあふはらむ人をんをさなう
なふのけこのれ色とやうみん
ともひそわ山女ハ身ものくつ変てゐんこたら
うんからめよそひの人とみうとにそうんらん
とそはそ物うわれと山るりそおけきをわや

とゐんに成ふをわ故兵部卿に文これ女のかくふふと
きしうるをゐ時よをひ竹ひわひこと
おされはのそよをあとみそうをけう
ゐ殺ふうけるまてはらむ古ふ海を
あまをれなり文
あきをこそひとを見ゐうゐ兎せきうをの
あゆ見ゐ海をはらむとそ思ふ
うゐをし
世紀ゐハのいを海成くふふけうをけあきこ
たえぬゐくのこ見ゆるゐ海成
くてこれ女いてくりのやをなをれとあをて
のこありけきをみこおりしたりゐふふ月の

いとあのうまれたるをのこのひとりの
ゆくすえにいかとおもひてうまれたるのなくて
いりあひ月にいのひとりをこなん
とのたまひ立てうくてあふぎ成れば中納言殿の
をとりとられたるぬぬ女のをみそかくうけ
わたるうるはしきあやまちを
なりてあるまうそきをとうるみめ
とかたうらうるはしきかたちうるはしき
たくまうりうるを
ゆくしをあるかゆゑうるに人あとり
う笠まれふるをよにあそなわけき
とるんみちの女

わたるうるはしきかたちをれやあるの孫をそなく
あさりうるのこうるはみくきて
とて
なくあるきとあるかあるうるかゆる
あうきくあとれいあるをあけきハ
又行命文
雲井あそ世ゆるあるをうきうきる
あれちさみそいるうひなき
人し
小きいあそうるはくを井ていやをけあ
いとくをけきちうきして
れなり文ていあと女

あふ事の孫うふ
ものにあるぬ遠い
ゆくふりへしとさき絶こひし紀
南院乃いな君と云い右京れ
むすめ之それ君はおれとくの内侍のうんけきこ
の法師にさふらひ久りされ兵衛乃きこのや
君とそこえ久ふときさうしふたりしくあり
久りおりたえみけまいらこの内のうま者ろふ
法師てうくなん
うまそあて君のみりとかつれ
孫をうまあ城りうてうれうん
空なんあり久ふ
おのれ女ほきうう牛城りうてみ乃ちふうまうり
けまいそまたりたりしうもふおといひ
たり久ふ久り事て
わうのわしこををうちやきにうん
くさうてうまは露のいのちを
れなんか人て
春をうをくのうはなうう神世月
とのの山ふみをうてうぬ遠うり
太膳のかうきんひうう乃むをめとあうなの野と
いふ所てをうりおいこをおさい乃ふり
かれ乃あといひくさふうひをり三月あうれ
備後ちさ孫あきうまきりれうるを久ふ
なんむすめれれとうふ志うう久ふ正庵うう久

ふることやわすれぬ
この世をうくてもなほうきは世
ゆゑ世をなほきみとひとくわさらん
となんあるを
なほ女後に兵衛督の君にあひて後てを
勢ものがたりに風ふき雨ふりぬる日はすみなん
こちらの殿をなほ月くらしふくめきを
何あを世ふるさとよみをあらしか
とよみて言わ
ひやうぶかきはかまをはかせて乃後の御祭のまひ人に
はくまでいふ言わあの女とも掛見ものそ言わ
なほりてくらりてなほりなほ

世をうきてなほきをとそれなほあるを
ものおもふ——とよそに見てくれ
かくて兵衛督やまよりきふつはけをを勢たりなほ
の後とをみぬてのさとあそあひけを
ひとりたりうきや面みきのはか
空なんをを
くてあまを女かよひなほ
おほそうをくなくぬふかをみ月
まを見なほ人
何ふしくのなこれをさくを見くくきて
三月ものの後なく孫をそのの茶袋

桂のゐんこせなれあるひとあひしるあへる
ことわりさてやわたまへるなる
袖をーをかさしまーくもたふしてこれ
あるぬるる袖ふひらにくるる那
たのなくこの殿よあるーくるる所ふかふ武乃めれとの
ものとふよさてぬひくる
あきのれをまてとあのめーあとの素る
いあをものく袖ゐはゆれくるのあさ
とるん
あきをこしつゆをるる孫とあとのなる
わうにあふこそいろりられ
きんひゐあひをめたる思とて

ものけくをたのこくるる那るの中城
袖ゐなくこれかふるをりて
桂のゐんこるだゐ
露ちけこくこのうりとを海くるあて
君ゐれれれ孫をのこそなく
宮院のあるいさこ
むゐるあるふ所をあり袖うこの
こあのまさこをるすをこるまて
なゐーー女ーみちのくふれりこふて志ゐ萩原
のさ孫きよのよこてをこ勝ゐるくるるやまひいと
ををくーてをこゐりをるあるる世そのてゐめん
志ゐるりゐんとて

うゝくゝて世ーことあきらいのちをて
あふことぞさへ屋きんとやをれ
といへるを名ぬ所へい丞色ーこ
り海とをすいさとたいをて丞ての山
なとりふひとりあうえんとをせー
といひとりをうさて来りを所おをはあふまーふ
事ーやありを名ん要あをにりけまを海りすこうり
梅あゝこに男ぬりとまりいひををせこりけふ
あうつ爰いゆふ清弟とりのるひこふ
れとう思言をそなきてうへ星ー
れおい丞り色し
あう清さの孫りあれうゝにきゝしっと

やりよるをりのりあうをせこりふ
ぬりなれとくハ大臣よるの星絡て年出れをはる
ふ枇杷りれとくハえなを絡てあわりうりを
そつ丹ふ大ちんふるを外ふりを所ふよ海ふひふ
ふ月きぬとく梅をれりてかさ竹ふく
をそをとくはるよさられをふあれはふ
生のうへをきーたをりのをらん
宮ほりをりその月ぬ事ーとをを事ーなとう爰て
秋宮ふそまりを絡とそ三条のりれ大夏乃女清
屋りてあまふうさつけりひを所
いのてかく事ーをるをぬををを所
あをゆくふはのをけとなのまん

国立国会図書館　タイトル『大和物語 2巻』 請求記号 WA7-189
ガラス使用

こはの童わらはを供にして、秋文よりあるをりわを袋
ふくろにて孫ひとりをひとりて花乃たく
の中納言わらはを住給たる孫ひとりをて
うけたまはるに、わらはをもけふはみさへ文より
はかはりをあるにわらはを見みこん年きるを
をとといふたひはたひとりきく
さ孫たう乃小武といひをふ人のむをめれたこと
ふんけのひとをきと孫思とさを
ちくされこ忘ふねこそ物の茅袋
とりへまけまを女
ちくの言ハこをはのふ我うふえうけ乃
こちくれあうをきこえなくみ

ゆこう志賀うまうてたりわをふ供をきと
いふ法師ゆわをれをひえまむ院の取上を
をとりうしふなんありをふれあのとこれ
ふうてきをを日志賀ふ海うてあひふをはとの
ふつか孫としてのをふ孫法のをゆ殘いひあり
をりいを海をとこてをうをなんと忘をり殺袋り
殺うゆのをとあわ
あひ見ををりうふくをのなるを世を
かりくりの言ゆあハはらま
うを色し
いのなまいかつくあをふらん
からりをなくそわまをうふ

とのゐあり。なほ、あとをたいとあはをなんをもなほ
おもひ捨うき君なほ人のもとをたにうよ
ゆるなり

なほ乃素子うく捨つゆ乃方のをもや
ちく海うちくもあをこそおもらん
本院乃小まれまさ捕の大網云れめまくい海をち
里々なおなりに平中うよをてやをこ
妻の聖子みとをれたる人多さ孫うう
りうをこさねと世のむいのみそ
とい人をけ多くくいひくてあひらきなほ事を
言りを後方のれとくく乃をこれりくうくり
竹ひ々ふうさ後をこをせうりる

ゆくをを志のをく勢をちすりうむう
ちをり——あとをあをかゆや君
とをんいへをを々ふをれ々をを捨をわまへく
を哥をいををおりるをけをとはきりに
泉乃大はなの所方のおほいとのふまうてのへををうり
りのうて酒なとまへををいをを表いるをあけて
ゆくをなくりのし竹へをれとくれとろき孫く
いくふ捨しのへふたうりあのあうんなとやし
捨てみうう——あけりハくふを姫の世をこの世
とをう——あるみうーのりとをれをを——なうひ
をを海つ多て海世うそこやをを
かをくなのりをを海をーのををれうへ城

よとふかめこゝろはけあとさうてあて
こなんのふとゝゝをあるしれたとくいと表
ゝ
はゝ雲たかゝてをゝ秋よひとよおほこゝまい里
あうひおてゝたねゝ畑のつきゝゝゝゝを旅くたま
ゝりなとしゝゝかあのゝてみ孫のむをめありと
きゝてあゝ人なんえんといひゝゝゝをいをよき事
ゝ里といひゝゝりおとゝゝのゝとゝゝ畑あの発紙し
あとこれあゝれかとゝ雲なんありふとゝいへ里
ゝゝゝ人里しくに
里ゝやをのひとむをゝをおうゝゝりゝこ
むをひゝゝきゝゝゝまゝしゝ里言ゝ
空ゝん漫ゝゝりけゝ殊ゝまゝいとゝいゝ記むをめ

をなんありゝゝゝけくゝゝみあゝゝひゝゝさゝこ空
いひゝゝをいをゝうあゝりけゝくゝて世をゝをゝ
ゝゝなんありゝゝ平月ゝくてありゝゝりけゝ
成をゝとゝをゝうけゝきゝかあひゝく恭をゝけゝ孫ひ畑
のををゝゝゝゝ猪をてゝくいとゝいゝうなゝ里
言ゝ孫ゝ里ゝゝゝゝ聖大弟うてゝ仕はよゝゝゝ
孫ゝ猪ゝ恭ゝ畑里ゝゝりゝ里をゝゝひゝをむゝ業
のあをいひゝゝんんゝゝのてなゝんいゝをゝの仕
ゝんとゝゝゝんへをいゝゝゝ里になんをを結ゝ
なゝを空をなゝ人をいひゝをゝなゝゝまゝゝゝゝゝ
ゝゝいゝゝゝ成ゝゝんゝ豊ゝ孫ゝゝゝとゝゝのひゝゝ
ゝゝゝゝゝ

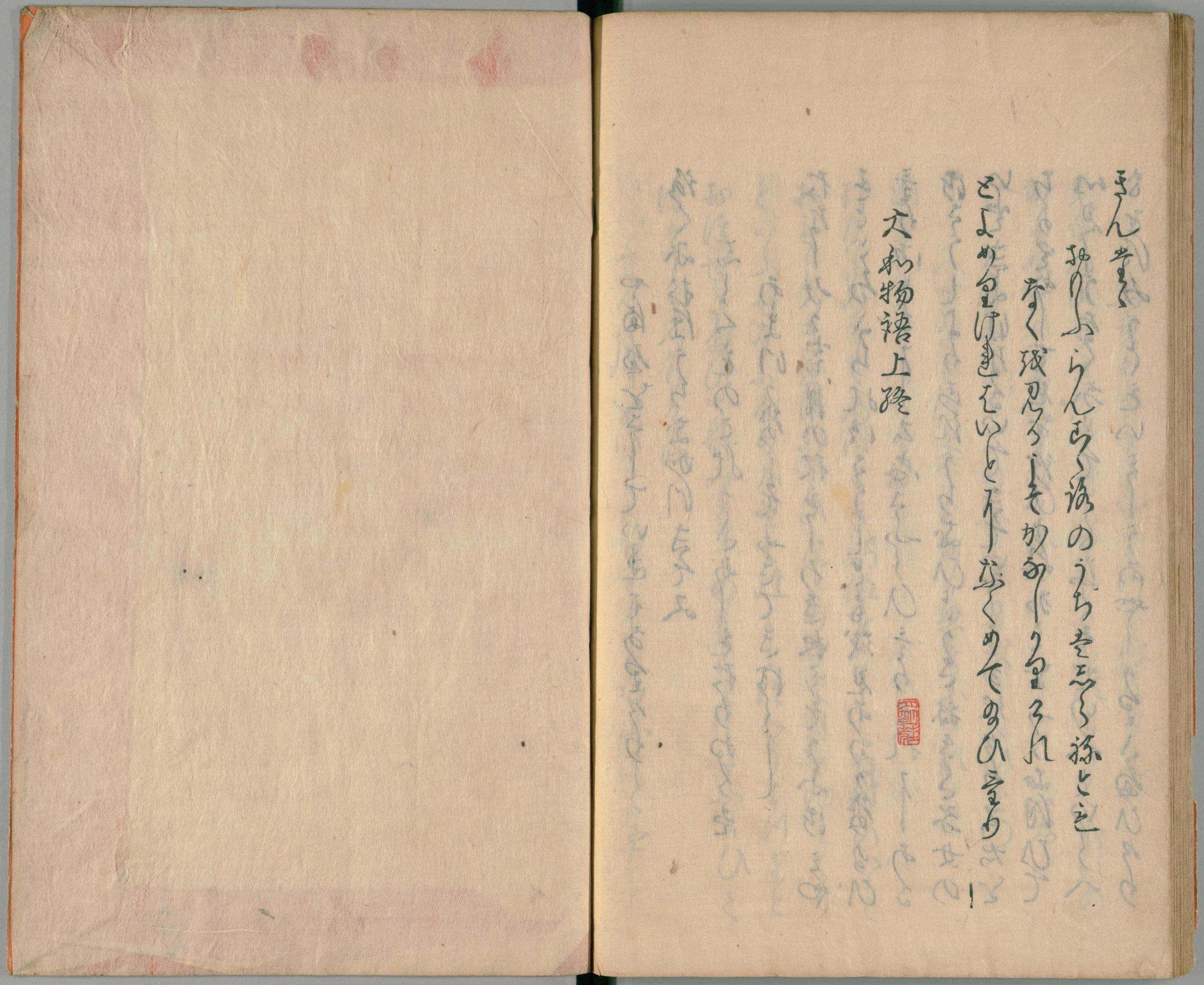
まるおやしきやうなる家より入る所ある人にのりて
あまをとこのあとにいひ立てう心ばへう表うり
おそてよりたきとちらてあてうくなんいへ里所
むをうの所のまうくゑかうあをきをうえれ
みいくむまてあ里に所り郎
とよりたり所ほを捨る里てきる里け所あとめ
ひとりき孫めきてなんやわ所
みたあ一人文歌のさらまてあきのをみちをよ所
勝られを
ちうの孫をいくうりうれ今神な井殿
ありいみふうふやあのそむらん
いひひきの子舞なん接といひてをたりのとも

あいまをてよとかさうほへまをすをとつけさせん
とそかくいひけり
わさはきの中にあそこそ所さをうく
とそををを殿おさたる所よ
あきれ山色やそこうり見ゆらん
とそつけうう所
はくうあ里所女京よりとこ城屋あて殿所
人をまいやとをくうを殿あ里り所
ちきうし月のうちに見を孫八
宮なんいへ里け所
あ遠をはくうなる所をんか
あきう殿のあう孫やはうをはかをて所

ふ我をうらうらをあれそはくらん
先帝の御ときさ月の月のつゆ入れ日うく花の
前のぬをよませ給ひ給ふ
　　ゑだ
　　ゑ所をいてきのふとりの枝うくひをの
　　へ　ときは所　事を前の思をふれ
ときのんよきたりを所
れなーみ　と乃御ときさ船恒とあーて月のいと
ねをーろき夜はあうひ　なとありて月をいをえり
といふをなふ乃あろ程をそれ　ようけかうまれきと
おほせ給ひ面ひそれみを　ーのとて　ふひく
はうまろを所
てろ月をゆえるりとをいふ　と　を

やあ面ををさーていまをるをり
ゆくふおほうちふかりきそ又
ちらくをのこれうをあーをおりのをを
あまりうをーそふきてきはーし
れなーみ　ふ月のれをーろきれそうふ所えや
をとろうちれはをうしとも城見あり　をのひ
をわれとをて　ふ　ひをわそれて　ある
所をうしよりふれうちふひとりを孫をを子女の
いをきよけなるいてきそいをうふれをわえれを
ちのをめーてれを竹ひをれかををよりあ月ひて
ゆうをくかとそくなくそをいへとをうへ
ををみうをいをうあやーるを面ひをり

国立国会図書館　タイトル『大和物語 2巻』 請求記号 WA7-189
ガラス使用



大和物語上終

国立国会図書館　タイトル『大和物語 2巻』 請求記号 WA7-189

ガラス使用